

## 29.8.1 木村泰子氏(大阪市立大空小学校初代校長)講演 報告

平成 29 年 8 月 1 日(火)福岡市中央区のアクロス福岡シンフォニーホールで行われた「木村泰子氏(大阪市立大空小学校初代校長)講演」を聞いてきました。演題は「みんながつくるみんなの学校～いつもいっしょがあたりまえ～とすることでした。氏は子ども達から学んだこととして「立場の違いや否定されることがないことなど、どんな子どもがいても不思議ではないと話されました。」主な内容は

- ① 人権という言葉を使わず人権を語る。(すべてに絶対的な正解はない。)  
→先生は子どもに発問し正解を求める。  
→子どもは先生の求める正解を考える。  
弱者は常に強いものの正解を考え答える。
- ② いい学校をつくろう(学力を保障し、すべての子どもが安心して学べる居場所をつくる)  
すべての子どもに学力をつける。→調査が評価になる。
- ③ 子どもの前で大人は学力・人格を共有しているのか。
- ④ レッテルを見てしまうと本人を失う。→そのこの姿を見る  
大人は一度あげた拳をどこでおろしたらいいか分からなくなる。  
子ども達のために出来るときと出来る人が出来ることをする。
- ⑤ S(サポーター)E(教育)C(キャプテン=リーダー)
- ⑥ 障がいを見るから子どもの本当の姿が見えない。頭で学ぶ(テクニック)より体で学ぶ(体験)。
- ⑦ 「子どもにあこがれを持ってもらう大人になる。」「みんなと同じ所で、同じように学びたい」「一緒にいることで周囲が育つ」  
などでした。

すべての子どもに居場所を保障する「大空小学校」の映画について補足すると

### 「みんなの学校」～すべての子どもに居場所がある学校を作りたい～

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる発達障害がある子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から 6 年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もいっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作り上げてきました。～学校が変われば、地域が変わる。そして、社会が変わっていく～

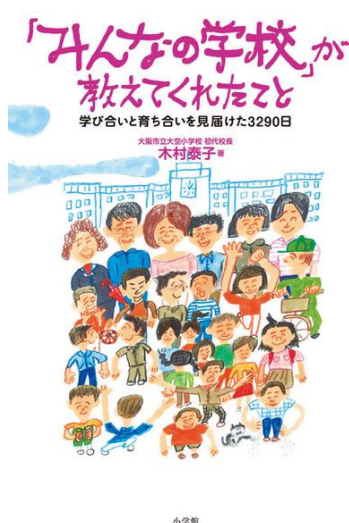
このとりくみは、支援が必要な児童のためだけのものではありません。経験の浅い先生をベテラン先生たちが見守る。子どもたちのどんな状態も、それぞれの個性だと捉える。そのことが、周りの子供たちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人ひとり思いやる力を培っています。

映画は、日々生まれかわるように育っていく子どもたちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職

員や保護者たちの苦悩、戸惑い、よろこび…。そのすべてを絶妙な近さから、ありのままに映していきます。そもそも学びとは何でしょう？そして、あるべき公教育の姿とは？大空小学校には、そのヒントが溢れています。みなさんも、映画で「学校参観」してみませんか？

当たり前の大切さ、当たり前の難しさ、当たり前の素敵さにあらためて大きな気付きや学びを得ることができた時間でした。

子どものための真の学校作りを地域と一体となっていて行っている大空小学校。たったひとつの約束事「人にされて嫌なことは絶対に人にしない、言わない！」はすべてのコミュニティの基本ですね。



### 「みんなの学校」が教えてくれたこと (書籍)

2015年2月から全国で公開され、大ヒットしたドキュメンタリー映画『みんなの学校』。この映画の舞台となった大阪市の公立小、大空小学校では、「自分がされていやなことは人にしない」というたった一つの校則と、「すべての子どもの学習権を保障する」という教育理念のもと、障害のある子もいない子もすべての子どもが、ともに同じ教室で学んでいます。全校児童の1割以上が支援を必要とする子であるにも関わらず、不登校児はゼロ。他の小学校で、厄介者扱いされた子どもも、この学校の学びのなかで、自分の居場所を見つけ、いきいきと成長します。また、まわり子どもたちも、そのような子どもたちとのかかわりを通して、大きな成長を遂げていきます。

本書は、この大空小学校の初代校長として「奇跡の学校」をつくり上げてきた、木村泰子氏の初の著書。大空小の子どもたちと教職員、保護者、地域の人々が学び合い、成長していく感動の軌跡をたどりながら、今の時代に求められる教育のあり方に鋭く迫ります。